

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北陸)		コンビニ（店舗管理）	単価の動き	・国体開催の恩恵があり、駅前店舗の客単価が大幅に伸びた。また、弊社独自のサービスがメディアに取り上げられたため、そのサービスの売上も上がった。秋のキャンペーンも好評である。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	来客数の動き	・新商品を取扱い始めたことにより、来客数が増えて客単価も上がった。
		一般小売店〔鮮魚〕（役員）	販売量の動き	・気候も落ち着いてきたためか、秋の観光シーズンに入り旅行者の姿が前年よりは目に付くようになった。市の中心市場も駅の商業施設も今年に入って初めて前年をクリアしたようだ。
		スーパー（店舗管理）	来客数の動き	・6～7月に比べ来客数は良くなってきているが、6か月前の推移状況に戻ったにすぎない。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・10月の販売量は前年同月比125%の見込みである。7月の販売量は前年同月比119%で、やや上向きである。
		自動車備品販売店（役員）	単価の動き	・スタッドレスタイヤ商戦に入ったが、例年以上に価格より性能を重視する傾向が強い。前年のドカ雪の影響も考えられるが、製造業関連の客は特に景気が良いように見受けられる。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ランチ利用だが県外からの社員団体旅行が例年より多く、客単価も例年より110%ほど高いこともあり全体の売上を3%ほど押し上げている。
		一般レストラン（統括）	来客数の動き	・マラソンなどイベント、行事が多いためか、外食する客が増え、特に県外からの客が多い。忘年会予約などの状況より、冬まではこの傾向が続きそうである。
		観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・国体や障スポの影響で北陸新幹線開業時並みの売上である。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年比で総売上112%、宿泊人数124%、宿泊単価92%である。台風による予約取消や外出控えが影響し、個人客は前年106%で終わったが、団体客の宿泊を151%確保できている。この影響もあり宿泊単価が前年を下回っている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・夕方の営業関係で来ている客のタクシー利用はまずまずである。また、病院の高齢者の送迎も回復している。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・12月のBS4K放送スタートに向けて、視聴可能なテレビ契約への関心が徐々に高まっており、通信を含めた契約全般の増加につながっている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数が前～今月と前年を上回っている。ここしばらくはなかったことである。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・鮮魚、野菜に加え、ガソリンも高値で推移しており、消費者の購買意欲に悪影響を及ぼしている。天候不順の初秋の巻き返しに期待したいが難しい。衣料雑貨は、様子見である。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	来客数の動き	・雨の影響などを考えなければ、余り変わっていない。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・来客数が3か年比較しても一番悪く、同業他社も来客数が伸びないという話を聞く。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・北海道物産展は、被災地への支援及び来場者からもがんばれ北海道との声が多く、例年の売上を大幅に上回り好調に推移した。反面、店全体では、前年に特殊要因としての大口の売上実績があり、それをカバーすることができず若干の前年割れの見込みである。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・10月に入り天候が安定し、主力である衣料品を中心にシーズン関連商材によりやく動きが出始めた。物産展を中心に食料品の動きは相変わらず堅調であり、一時的ではあるが全体として上昇傾向にある。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・台風被害や野菜の高騰、たばこの値上げがあったものの、全体として販売量は前年並みで推移しており、特に目立ったことがないことから横ばいである。
		スーパー（統括）	来客数の動き	・来客数の伸び悩みが続いている。
	コンビニ（経営者）	単価の動き	・来客数は増えたが、単価が変わらない。	
	家電量販店（店長）	お客様の様子	・特に売行きが好調な家電品はない。	

乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・9月から見れば当社の販売量は少し悪いが、業界全体の状況は余り変わらない。
乗用車販売店 (従業員)	来客数の動き	・週末に自社イベントなどを行っているが、なかなか来客数が伸びていない。
乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・来年10月の消費税の引上げの首相談話が発表されたが、客の反応はさほど変化がない。前回もあった駆け込み需要は政府の経済政策にもよるが、来年になるのではと考える。
住関連専門店 (役員)	販売量の動き	・季節商材の動向を含め、販売量が減少している。また来客数の減少も影響している。
その他専門店 [酒](経営者)	来客数の動き	・とにかく暇である。12月のお歳暮時期が近づいているが、この調子で行くと、かなりひどい状態になるのではないかと心配している。
その他小売 [ショッピングセンター](統括)	来客数の動き	・活性化工事に向けて一部専門店が閉店している状況であるが、来客数の落ち込みは限られている。業種により勝ち負けが出ている状況ではあるがトータルでは横ばいで進んでいる。
スナック(経営者)	来客数の動き	・中旬頃までは僅かな来客数であり、いよいよ閉店かと覚悟するほどであったが、その後は低空飛行ではあるものの、支払だけは何とかできていく具合である。悩ましい限りである。やはり客の年齢層が高いと、売上が上がらない。
都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・部門によってばらつきがある。宿泊・宴会は前年割れしている。食堂は貸切り利用が伸び、堅調である。
通信会社(店舗統括)	単価の動き	・高単価の商品でも、商品そのものに興味がある客は購入してくれる。
テーマパーク (役員)	来客数の動き	・前年同月比でみると直近の3か月は、自然災害などの影響や関西国際空港の一時閉鎖などの影響により、国内の団体旅行のキャンセルとインバウンド客の減少などもみられた。しかし、国内の個人旅行が比較的堅調であり、全体としては横ばいに推移している。
住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・イベントを実施しても来場者数が増加しており、住宅取得のために動いている実感はある。しかし、同業他社との競争も激しくなっており、受注にどれくらい反映されるかはまだ分からない。
住宅販売会社 (従業員)	単価の動き	・3か月前と比較すると契件数は上向きではあるが一時的なもののみられる。
住宅販売会社 (営業)	来客数の動き	・春先から来場者数の低調に改善がみられない。
商店街(代表者)	来客数の動き	・50年ぶりに国体が開催され、県外からの来県者を目当てに売上増を期待した店が多かったが、不発だった。50年前とは交通事情も異なり、宿泊せずに日帰りも多かったようだ。逆に県内客は国体の影響で減少し、トータルでもマイナスという店が多い。
百貨店(営業担当)	単価の動き	・婦人服売場の中でも、プレタポルテゾーン、高単価のショップで、売上が前年同月比90%以上の店舗はなくゼロである。このような状況から、婦人服売場が店全体の売上の足を引っ張っている状態である。
スーパー(店長)	来客数の動き	・今までは来客数が落ち、客単価が上がる傾向であったが、徐々に客単価も落ち始めてきている。たばこの値上げや、野菜の相場高、ガソリン高騰などの影響があるのかもしれない。
スーパー(総務担当)	来客数の動き	・来客数の減少が続いている。1つの要因として、付近のドラッグストア各店において食品売場の拡大や食品販売種類の増加が続いており、その影響を受けている。
コンビニ(経営者)	来客数の動き	・来客数の落ち込みは、ここ2~3か月以上続いており、客単価の伸びも止まっている。前月の売上はたばこの値上げ前の駆け込み需要によって良かったのだが、今月はその反動で低下している。
コンビニ(エリア担当)	単価の動き	・たばこの値上げの影響が大きい、それを除いてもやや悪い。
衣料品専門店 (経営者)	販売量の動き	・今月は比較的暖かく推移し、アウターが今一つ伸びていない。
衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・人手不足に苦しみながら、衣料品に対して客の購買意欲が感じられず、大変厳しい。
都市型ホテル (役員)	販売量の動き	・宿泊部門は若干稼働率が低下している。宴会部門は大会、コンベンションの大型会合の予約状況が悪く、全館ではやや悪くなっている。
旅行代理店(所長)	販売量の動き	・個人旅行、団体旅行共に前年取扱額割れとなっている。

	タクシー運転手	来客数の動き	・週末は紅葉を楽しむ観光客などにより、まずまずの状況である。ただし、平日は静かでタクシー利用客が少なく、全体としてはやや悪い。	
	通信会社（営業担当）	来客数の動き	・新商品が発売になったにもかかわらず販売量、来客数共に前年比を下回る結果となっている。	
	通信会社（役員）	販売量の動き	・放送の方は例年どおりの契約数で推移しているが、一方、通信サービスの契約数が例年より伸びていない。	
	その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	お客様の様子	・体験、入会の数が減ってきている。水道光熱費などの経費が確実に上がってきており厳しくなっている。	
	x	-	-	
企業 動向 関連 (北陸)	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・地域的に偏りはあるが、工事の発注が進み出した。	
	食品品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・一部製品群に特需があり生産に追われている一方、その他製品群が軒並み低調で、全体ではプラスマイナスゼロといった状況である。	
	繊維工業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注状況は良好だが、人手不足と原料の価格高騰などで非常に苦労している。	
	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・現在の受注額は、数か月変わらず推移している。	
	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・原料の価格高騰の影響は引き続きあるものの、総じて受注は順調に推移している。	
	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・米国市場は9月に工作機械の展示会シカゴショーが開催され、北米の市場が好調である。欧州と国内も引き続き受注が好調である。	
	精密機械器具製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・量的には2～3か月前に比べ増えているが、新商品の発表シーズンでもあったため、その影響を差し引くと、ほぼ横ばいから微増である。	
	通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・提案ベースで設備投資意欲が感じられ、受注量は堅調な状況が続いている。	
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・取引先小売店の売上はおしなべて好調だが、力強く伸ばしているとはまではいえない。売上の種類でいえば、全体に富裕層向けの高額品を扱う部門が好調という印象がある。一方で取引先メーカーは、全般的な利益押し下げ要因として、資材や燃料の価格上昇が少しずつ効いてきた印象を受ける。	
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者に話を聞くと、忙しそうな感じの話が多い。	
	司法書士	取引先の様子	・前月同様に会社設立や事業用資金の融資、役員の追加のための依頼が多い。	
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・建材販売業者にヒアリングしたところ、売上は何とか維持しているが、運送費が石油価格の上昇で値上げ要請が強く、収支は悪化傾向とのことである。また、内装建材の仕入れ単価の値上げが控えているため、販売単価の引上げを交渉中とのことである。
		税理士（所長）	取引先の様子	・今の状況はまさに人手不足の一言につきる。製造業や建築業もいろいろな引き合いは多いのだが、やはり人が足りないので工事の引き受けができない、あるいは製品の受注を延ばしている。また、アパレル関係は販売員が確保できず、やむを得ず店を閉じるという、人手不足による負のスパイラルを非常に大きく感じる。
		x	*	*
	雇用 関連 (北陸)		-	-
		-	-	
人材派遣会社（役員）		求職者数の動き	・人材確保、育成が厳しい状況にある。	
人材派遣会社（社員）		求職者数の動き	・求職者数は横ばい感がある。フルタイム希望者は少なく、単発の仕事の応募者が多い。	
新聞社〔求人広告〕（担当者）		雇用形態の様子	・求人広告数が前年の3分の2であり、そのうちパート、アルバイトが半分を超え、求人の内容が軽いものが増えてきたようである。正社員の動きがさほど大きくないのであれば、大きく景気を左右する動きは起こらないようである。	
	新聞社〔求人広告〕（営業）	周辺企業の様子	・消費が上向いているという声が聞こえない。	

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率は前年同月比16.7%減となっているが、これは景気的情勢悪化ということではなく、求人の巡り合わせということが原因と考えられる。引き続き薬品関係、健康食品関係などのパッケージの印刷、紙器の製造の部分は大変元気であり、引き続き順調に求人を受理している状態である。
	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人数は高止まりで人手不足は改善していない。派遣スタッフ確保が難しくその対応に苦慮している。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・今年度の求人でも、情報系の企業やアウトソーシングの企業がまだ継続しているのが目立つ。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・僅かに求人数が減っている。
x	-	-	-